

コンタクトオーガニクス・ホームセーフ N 濃縮除草剤

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製造者情報詳細 住所	コンタクトオーガニクスピーティワイ社 スイート 43, 45 リバースデールロード, ハウソーンイースト, ビクトリア州 3123, オーストラリア
輸入者情報詳細 住所	株式会社ドゥートレーディング 〒183-0005 東京都府中市若松町 1-2-5 芽生会 BLD. 301
電話	042-352-0102
メールアドレス	p.hidaka@contactoragnics.com
緊急連絡先	080-4179-2180
推奨用途及び使用上の制限	非農耕地専用除草剤

2. 危険有害性の要約

製品の GHS 分類、ラベル要素

GHS 分類	皮膚腐食性/刺激性	区分 2
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A
	水生環境有毒性 (急性)	区分 3
	(注)記載なき GHS 分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない	

GHS ラベル要素



危険喚起語	警告
危険有害性情報	H315 - 皮膚刺激をおこす H319 - 強い眼刺激をおこす H402 - 水生生物に有害
安全対策	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。 保護手袋を着用すること。 保護眼鏡/保護面を着用すること。
応急処置	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん (鹼) で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。
廃棄	内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報 混合物/単一化学物質の選択: 混合物

成分名	含有量 (%w/w)	CAS 番号	化審法番号	化学式
ノナン酸 (ペラルゴン酸)	60	112-05-0	2-608	C9H18O2
柑橘類テルペン (リモネン)	20			
界面活性剤	20			

#### 4. 応急処置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	すぐに石鹸と大量の水で洗浄すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、数分間目を閉じて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。
飲み込んだ場合	口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。ただちに医師もしくは毒物管理センターに連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。
応急処置をする者の保護	個人用保護具を着用すること。

#### 5. 火災時の措置 消火剤

適切な消火剤	周辺設備に適した消火剤を使用する。
化学物質から生じる特定の危険	加熱すると分解し、有毒ガス（炭素の酸化物やを含む）を発生することがあります。強く加熱すると、容器が破裂したり爆発したりすることがあります。
消化を行う者への勧告	関係者以外は安全な場所に退去させる。
特有の消化方法	霧状水により容器を冷却する。
消火を行う者の保護	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外は近づけない。 回収が終わるまで十分な換気を行う。 皮膚や目への接触を避ける。 適切な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。
漏出封じ込め及び浄化方法と機材	漏れた液やこぼれた液を密閉式の容器に出来る限り集める。 少量の流出は拭き取る。 大量の流出は、スポンジ等の吸収性材料と一緒に流出を止める。
二次災害の防止策	漏出物を回収すること。

#### 7. 取り扱い及び保管上の注意

安全取り扱い注意事項	ご使用前に製品ラベルをよくお読みください。 本液の目や皮膚への接触や散布霧の吸入を避けてください。 8欄で指定されている保護具を着用する。 換気の良い場所で使用してください。 皮膚に触れないようにする。 眼に入らないようにする。
配合禁忌等、安全な保管条件、適切な保管条件	食品と離して、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉しておくこと。 涼しいところに置くこと。

#### 8. ばく露防止および保護措置

設備対策	屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
	ばく露限界 この供給された製品は地域の特定取締機関によって発行された職業ばく露限界値のある有害危険物を含有していない。

保護具

呼吸器用保護具 防塵マスク、手の保護具 保護手袋、眼の保護具 側板付き保護眼鏡  
(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡) 皮膚及び身体の保護具 長袖作業衣を装  
備する。

適切な衛生対策

産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

---

## 9. 基本的な物理的および科学的性質に関する情報

---

物理的な状態	物理的な状態が変化する特定の温度/温度範囲		
形状			
形状	液体	沸点	>150°C
色	無色透明	引火点	>95°C
臭い	特有な臭い/ノナン 酸 (ペラルゴン酸) 柑橘系/柑橘類テル ペン (リモネン)	比重	約 0.9
		溶解度：水に対する溶 解度	乳化する

---

## 10. 安全性及び反応性

---

化学的安定性	推奨される保管および使用条件下で安定。
危険有害反応可能性	推奨される保管および使用条件下で安定。
避けるべき条件	火源、熱、混触危険物質との接触。
混触危険物質	強酸、強塩基、強酸化性物質
危険有害な分解生成物	加熱して分解すると、炭素酸化物を含む有毒ガスが発生

---

## 11. 有毒性情報

---

毒性情報	LD50 経口 - ラット - オスおよびメス - > 2,000 mg/kg (OECD 試験ガイドライン 423)
急性毒性	LD50 経皮 - ラット - オスおよびメス - > 2,000 mg/kg (OECD 試験ガイドライン 402)
	<b>皮膚腐食性及び皮膚刺激性</b> 皮膚 - ウサギ 結果: 刺激 - 4 h (OECD 試験ガイドライン 404) (規則 (EC) No 1272/2008, Annex VI)
	<b>眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性</b> 強い眼刺激。(規則 (EC) No 1272/2008, Annex VI)
	<b>呼吸器感作性又は皮膚感作性</b> Local lymph node assay (LLNA) - マウス 結果: 陰性 (OECD 試験ガイドライン 429)
	<b>生殖細胞変異原性</b> Ames 試験 大腸菌/ネズミチフス菌 結果: 陰性

**変異原性(ほ乳類での細胞試験): 染色体異常。**

人間のリンパ球

結果: 陰性

**発がん性**

**IARC:** この製品に 0.1% 以上存在している成分で、IARC によりヒト発がん性物質の可能性が

ある、となり得る、またはヒト発がん性物質であるとして確認されている物はない。

生殖毒性

データなし

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

データなし

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

データなし

吸引性呼吸器有害性

データなし

追加情報

反復投与毒性 - ラット - オスおよびメス - 経口 - 28 Days - 無毒性レベル - 150 mg/kg

RTECS: データなし

粘膜、上気道、眼および皮膚の組織に極めて有害である。、咳、息切れ、頭痛、吐き気  
化学的、物理的および毒性学的性質の研究は不十分と考えられる。

## 12. 環境影響情報

生態毒性

**魚毒性**

流水式試験 LC50 - *Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ)

- 104 mg/l - 96 h(OECD 試験ガイドライン 203)

ミジンコ等の水生無脊椎動物

止水式試験 EC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - 96 mg/l - 48 h

脊椎動物に対する毒性 (US-EPA)

**藻類に対する毒性**

止水式試験 ErC50 - *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻)

- 60 mg/l - 72 h(OECD 試験ガイドライン 201)

備考: (類似製品と同様)

**微生物毒性**

最大無影響濃度 - 活性汚泥 -  $\geq$  14 mg/l - 28 h

備考: (ECHA)

残留性・分解性

生分解性、好気性 - 曝露時間 28 d

結果: 68 - 75 % - 易分解性。

(OECD テスト ガイドライン 301B)

生体蓄積性

データなし

土壌中の移動性

データなし

**PBT および vPvB の評価結果**

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB 評価データはない。

他の有害影響

長期継続的影響によって水生生物に有害。  
長期継続的影響によって水生生物に有害

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。  
廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行い危険有害性のレベルを低い状態にする。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行なっている場合には、そこに委託して処理する。  
汚染容器および包装 容器は清浄して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

14. 輸送上の注意

国連番号

ADR/RID (陸上規制) : - IMDG (海上規制) : - IATA-DGR (航空規制) : -

国連輸送名

ADR/RID (陸上規制) : 非危険物  
IMDG (海上規制) : Not dangerous goods  
IATA-DGR (航空規制) : Not dangerous goods

輸送危険有害性クラス

ADR/RID (陸上規制) : - IMDG (海上規制) : - IATA-DGR (航空規制) : -

容器等級

ADR/RID (陸上規制) : - IMDG (海上規制) : - IATA-DGR (航空規制) : -

環境危険有害性

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): 非該当

IATA-DGR (航空規制) : 非該当

特別の安全対策 なし  
混触危険物質 強酸化剤

15. 適用法令

物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

国内適用法令

消防法: 引火性液体, 第三石油類, 危険等級 III, 非水溶性液体

毒物及び劇物取締法:

労働安全衛生法: 非該当

特定化学物質障害予防規則: 非該当

有機溶剤中毒予防規則: 非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物: 非該当

名称等を表示すべき危険物及び有害物: 非該当

化学物質排出把握管理促進法: 非該当

---

## 16. その他の情報

---

参考文献

ITE: 独立行政法人 製品評価  
技術基盤機構  
[http://www.safe.nite.go.jp  
/japan/db.html](http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html)

IATA 危険物規則書

RTECS: Registry of Toxic  
Effects of Chemical  
Substances

中央労働災害防止協会 GHS

モデル SDS 情報

有機合成化学辞典 (社) 有機  
合成化学協会講談社サイエン  
ティフィック

化学大辞典共立出版等

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手  
できる資料、情報データに基  
づいて作成しており、新しい  
知見によって改訂される事が  
あります。また、注意事項は  
通常の取扱いを対象としたも  
のであって、特殊な取扱いの  
場合には十分な安全対策を実  
施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最  
新の知識及び経験に基づいた  
ものです。安全性データシー  
トの目的は当該製品を安全に  
取り扱って頂くための情報を  
提供するものです。ここに記  
載されたデータは製品の性能  
について何ら保証するもので  
はありません。

ここに記載した GHS 分類区  
分の算定根拠は現時点におけ  
る日本公表データです。